

# 文化いせさき



境赤レンガ倉庫

## 伊勢崎市文化協会

### 令和元年度 伊勢崎市文化協会事業予定

伊勢崎市文化協会では、一年間を通して下記のような行事を行います。  
各期とも入場無料ですので、皆様お気軽にご来場ください。



開催日		【部門】	事業名	会場
4月	14日(日)	【郷土芸能】	華蔵寺公園花まつり 郷土芸能発表会	華蔵寺公園野外ステージ
5月	28日(火)		定期総会	プラザ・アリア
第1期 令和元年 9月	13日(金)～ 15日(日)	【美術】	総合作品展	境総合文化センター 一般展示室他
	15日(日)	【洋舞】	洋舞フェスティバル	境総合文化センター 大ホール
	15日(日)	【茶道】	茶会	境総合文化センター 和室他
第2期 令和元年 11月	16日(土)～ 17日(日)	【自然】	総合展	境総合文化センター 一般展示室他
	16日(土)	【音楽】	市民音楽祭	境総合文化センター 大ホール
	17日(日)	【郷土芸能】	郷土芸能大会	境総合文化センター 大ホール
第3期 令和2年 2月	2日(日)	【民謡民舞】	民謡民舞発表大会	境総合文化センター 大ホール
	7日(金)～ 9日(日)	【書道】	書道展	境総合文化センター 一般展示室他
	8日(土)～ 9日(日)	【文学】	文学祭	ふくしプラザ 展示ギャラリー他
	8日(土)～ 9日(日)	【華道】	いけばな展	ふくしプラザ ワークショップ
	9日(日)	【歌謡】	発表会	境総合文化センター 大ホール
第4期 令和2年 3月	5日(木)～ 8日(日)	【写真】	写真展	境赤レンガ倉庫
	7日(土)	【諸芸】	発表会	境総合文化センター 小ホール他
	8日(日)	【吟剣詩舞】	吟剣詩舞の集い	境総合文化センター 大ホール
	15日(日)	【邦楽舞踊】	邦楽舞踊のつどい	境総合文化センター 大ホール

#### 【発行誌の経緯】

平成19年5月25日に旧4市町村の文化協会の合併に伴い、伊勢崎市文化会館にて設立総会を行い、新生伊勢崎市文化協会が誕生した。これに伴い、平成20年度より「文化協会だより」を発行。平成24年度には創立5周年記念文化祭の開催に伴い、記念号を発行するにあたり、「文化いせさき」と名称を変更した。

- 平成20年度「文化協会だより」第1号
- 平成21年度「文化協会だより」第2号
- 平成22年度「文化協会だより」第3号
- 平成23年度「文化協会だより」第4号
- 平成24年度「文化いせさき」第1号  
※創立5周年記念文化祭記念号
- 平成25年度「文化いせさき」第2号
- 平成26年度「文化いせさき」第3号
- 平成27年度「文化いせさき」第4号
- 平成28年度「文化いせさき」第5号
- 平成29年度「文化いせさき」第6号  
※創立10周年記念文化祭記念号
- 平成30年度「文化いせさき」第7号
- 令和元年度「文化いせさき」第8号

令和元年5月 『第8号』発行  
□発行責任者：諏訪 勝美 □編集責任者：星 瑛子

# 『新しき時代を迎えるにあたり』



伊勢崎市文化協会  
会長 諏訪 勝美

二〇一九年五月一日より元号が令和に変わりました。平成最後の三十年度は世界情勢も厳しく混乱の年でも有りましたが、日本では異常気象や災害での激動の一年でした。

巨大台風二十四号は、西日本から東日本へかけて広範囲の暴風と豪雨で土砂崩れなど多発、北海道や大阪北部地震、札幌での爆発火災など未だに復興できず大きな爪痕が残っているといえます。誠に痛ましく早く元の生活に戻れることを願うばかりです。そんな中私達は幸いにして文化活動に動んで居られる事は誠に幸せなことです。

私達の文化活動には素晴らしい特権があります。活動の中では交友関係を深く育み多くの仲間と固い絆が出来、いろいろな分野の文化とも出会い、自身をも高揚する事が出来ます。生活をする為の人生と多くの人達に作品展や発表会を観て戴き、数多くの芸術文化に触れ、素晴らしい文化を、多くの人達に伝承すると云う二つの人生を並行して学ぶ喜びがあり

ます。今、世の中の環境も大きく変わり、頭脳明晰の文明の利器に委ね、ボタン一つ押せば結果がすぐに出る便利さを追い掛け、体で覚え、何年もの時を要し修行に励むなど、忍耐を期して二つの物事を成し遂げる事などが薄れつつある昨今、黙々と修練を重ね、毎年行事の発表会には展示部門も舞台部門も心に響く素晴らしい作品を発表し、多くの観客に感動を与えています。

いま会員の皆さんには新しい時代を迎えるにあたり、全会員の総力を持って、新しい人材の発掘を目指し、一人一人の特徴を生かしながら、自分だけでは出来ない事も団結する事により夢も叶い、健康増進と生涯現役に向かって役立つ文化活動に、胸を張って絆の輪を大きく広げられます事を祈念致し、末尾に成りますが事務局及び賛助会員の皆様方、また文化協会関係各位の皆さんには新しい元号に変わりましたが、尚一層のご支援ご協力の程宜しくお願い申し上げます。

## 【表紙説明】

### 境赤レンガ倉庫

境赤レンガ倉庫は、大正八年(一九一九)に境運輸倉庫(株)が、繭の保管倉庫として建設しました。戦時下には、兵士用の食料の乾燥場として使用され、戦後には蚕糸業の衰退とともに電気部品の製品庫として使用されました。その後、平成十二年に養蚕業で栄えた地域の歴史を物語る貴重な歴史資産として旧境町(現伊勢崎市)が取得しました。

取得後は、耐震等の理由から、長年建物の未利用が続いていましたが、絹産業で栄えた本市の歴史的建築物を活用し、市民の交流及び地域の活性化を図るため、地元有識者等との検討も交え、平成二十九年十一月に耐震化を含む改修工事を竣工しました。

施設内は、鉄骨造により天井裏の小屋根組みやレンガ壁との調和を最優先したホールや多目的スペース、市民の憩いの場として交流ラウンジが設けられています。また、夜間には幻想的なライトアップでレンガ壁を映し出します。

平成三十年四月からは、観光及び文化の振興に資するための拠点として、各種イベントや会議等で利用されています。

撮影者／写真部門 日報連 伊勢崎支部 岡村 文夫



## 伊勢崎市文化協会 各部門のあゆみ

### 茶道部門

#### 伊勢崎市文化協会 茶道部門・茶会に参加して

斉藤 幸子

早く涼しい秋が来ないかなあー猛暑の続く、九月九日(日)伊勢崎市文化協会主催の芸能発表会を、境総合文化センターにおいて行いました。

一階展示ロビー小ホールでは美術総合作品展が、大ホールでは洋舞フェスティバルを行いました。

茶道部門の茶席は、例年の通りに二階茶室と和室を三席の茶席に設え、茶室は一席の江戸千家、和室は二部屋に仕切り、二席は煎茶道方円流、三席は表千家が担当しました。

奈良の元興寺の古材を使って造られており、棚は伊賀の耳付、茶器は秋の蒔絵、茶碗は重陽の節句に因み、膳所焼の色絵、菊慈童の絵柄を使い、お菓子はお饅頭を使いました。

日本に四季が有る様に、お茶の世界にも軸・諸道具・花・菓子等に季節が有ります。これらを踏まえ数日前より道具の取り合わせから全てに心をくばり、この一服のお茶で、お客様が如何に初秋の季節感を味わって頂けるかと試行錯誤し、初秋にしては暑過ぎた一日のおもてなしを精一杯楽しんでみました。

お席にお入り下さった皆様、ご手配下さった事務局の方々から感謝いたします。今後、気楽に楽しめるお茶を目指し日本文化の誇りとして精進して行きたいと会員一同語り合い家路に着きました。

### 文学部門

#### 大切な展示場の選定

光山 半弥

第十二回文学部門の文学祭は、二月十六日(土)十七日(日)の二日間、ふくしプラザ一階の展示ギャラリーにて、伊勢崎市共催、市教育委員会・上毛新聞社後援の

もとに開催しました。今回は従来の展示場所の反省を踏まえ二階の会議室から一階の展示ギャラリーに変更しました。

同時開催の華道部門の展示場所と隣接し、来場者の増加となりました。

各団体の出点数は、みさと短歌会六点、境図書館短歌会十点、伊勢崎市民俳句会十二点、紙芝居を楽しむ会が多数を、そして群馬童話研究会が作品を展示し、多くの来場者を迎える事が出来ました。

十六日には公務ご多忙中にもかかわらず五十嵐市長・徳江教育長の御来場をいただき感謝申し上げます。

来場者は、展示場所の好位置への設置や華道部門の協力を得て同時開催となり、前回の一・六倍の二百四十二名が訪れました。

文学講演会については、以前文学祭に合わせて開催していましたが、広く来場者が見込める内容を如何にするか、講師の依頼等の課題もあり次年度開催の検討課題としました。

## 音楽部門

### 音楽部門の歩み

栗原 茂美

音楽部門は平成三十年度に二十三団体六七〇名の仲間たちとなりました。

新しい一団体のお仲間が加わったことはうれしいことでした。

各団体は、今年度もさまざまな発表の機会に向けて練習を重ねてきました。

十一月十七日には、第十二回市民音楽祭を実施いたしました。アコーディオン、ハーモニカ、オカリナ、バンド演奏、コーラスなどの多彩な発表がありました。最後に、会場の皆さんと一緒に「ちゃつきり節」、「ふるさと」を歌い大いに盛り上げました。

回を重ねることに運営もスムーズになり、仲間意識も高まってきています。今年度は二十三団体のうち十九団体が参加しました。それぞれの団体が精一杯の力を出して発表することができました。

お客様も年ごとに増えてきています。会場一体となって音楽を楽しんだ一日でした。

時代に果たす役割を担っている事を痛感しております。

この市民音楽祭に際しましては事務局の方々、実行委員をはじめ関係者の皆さんに大変お世話になりました。心より厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

悲しいことやうれしいことがある度に、音楽の力の大きさを実感しておりますが、その音楽の一端にいられることの幸せを感じています。

この幸せを感じられる仲間がひとりでも増えることを願っております。

### 歌謡部門

#### 親睦旅行と年二回の発表会を終えて

船戸 省三郎

私達歌謡部門は会員数八一人で、日頃の練習の成果を晴れの舞台で一人でも多く発表できるように、各団体(十三団体)の会長さんを中心に頑張っております。一ステージ一人、また、デュエット曲でも二人、一日で発表できる出演者は平均一六五人が精いっぱいのため、発足以来年二回の発表会を恒例の行事としております。先ず念願であった親睦旅行について紹介します。

三十年七月一日、日光鬼怒川温泉郷の一泊二日の旅でした。境総合文化センター駐車場

に集合、歌好きな会員達がバスに乗車。植木部長の挨拶が終るとバスの中はカラオケスタジオに早変わり、それはそれは盛り上りました。夜の懇親会の席でも同様でした。帰りに、日光市内にある作詞作曲家船村徹記念館を見学。館内にある生演奏で歌えるスタジオでは、会員数名が歌い上げ、館内見学の終り時には、DVDとして仕上り、その凛とした姿がバスのモニターに写しだされ、より親睦の成果を盛り上げてくれました。

第二十四回を三十年六月三日(日)一六〇名の会員により、その曲に合わせた衣装をつけ、表情豊かに「ナツメロ」や新曲等を熱唱熱演しました。歌い上げる出演者には、温かい惜しみない拍手が送られ、その姿を、私は、司会進行をしながら歌っている人が楽しければ、見て聞いている側の人も楽しい気分になれると、いつも感じつつ、第二十四回の発表会の幕を降すことができました。

第二十五回の節目の発表会は三十一年二月三日(日)境総合文化センター大ホールにおいての発表会が近づいた一月、いつもの年より早くからインフルエンザが発症し、十二月そして正月を迎えても衰える事なく猛威をふるいつづけ、発表会が心配されましたが、会員皆さんの努力により数名の欠席者で済み、諏訪

文化協会々長を迎え励ましの言葉を頂きました。舞台の上では日頃の成果を遺憾なく発揮すべく、それぞれ思いを込めてその歌に酔い、聞いて下さるお客様に感動を与え、舞台と客席とが一体と成り楽しい時間を過ごすことができました。これも日頃より、各団体の会長さんの指導のもとと会員皆さん、そして事務局関係各位のご協力の賜物と心から感謝申しあげます。次回発表会は新たな元号、新時代に期するも、日常生活の中において心を癒やしてくれる一番の妙薬は、やはり歌でございます。会員皆さんと共に愛される歌謡部門であります様より精進して参ります。



## 邦楽舞踊部門

**第十二回邦楽舞踊のつどいを終えて**

川島 かずみ

三月十七日、桜の蕾もまさに開こうとする季節の中、春の気配を感じながら私たち邦楽舞踊はいつものように朝早くから会場に入り、今回初めて境総合文化センターが会場となり、慣れない中でもいつものようにお互

で一段と熱がこもる大会であったと思います。このような発表の場を与えて頂き、感謝いたします。式典には五十嵐市長、徳江教育長より温かい御祝辞を頂き会員はじめ、会場のお客様もとても励まされています。会員も、年々高齢化が進んでおりますが、民謡を唄い、民舞を踊る事で、張り合いを持って、いっそう元気で暮らしたいと願っています。

こうした行事の中で、やはり、「郷土芸能大会」は、会員たちにとって、最も意義ある発表会であると思います。開催するに当り、事務局、実行委員の皆さんと協議し、意見を参考に、広告から当日のスケジュールまで、念入りに打合せをして、毎年開催しています。出演団体も、八木節・和太鼓・屋台囃子・拳法・安来節・神楽・龍頭神舞・木遣り等、それぞれの団体が活躍しています。伊勢崎市に古くから伝わる芸能が、こんなにも多く有る事を、改めて考えさせられます。しかし、これからの伝統芸能が、市民の皆様には知られていないと言う事が実情ではないかと思えます。

## 今後の活動として

糸井 清春

現在、郷土芸能部門は、四十二団体、約二二〇名により、結成されています。

活動としては、四月の、華蔵寺公園「花まつり」、八月の「いせさきまつり」、十一月の「郷土芸能発表会」を、年間行事として、活動しています。その他、一月、「ニューイヤ―駅伝」新潟県寺泊

い譲り合いながら楽しく会を終える事が出来ました。大きな舞台で何事なく出演者全員が無事に演じられた事は、皆様のおかげと感謝いたしております。まして今回は平成最後の記念すべき会でもあり特に気合が入り、盛大且つ華やかに舞台を終えることが出来た事は、とても嬉しく幸せに感じている次第です。

これからの時代の変化と共に、私たち邦楽舞踊は古典を守りながら、新しい事に果敢に挑戦し、成長出来る会になれるように精進していききたいと思っております。

今後共変わらぬご支援を賜りたく、宜しくお願い申し上げます。

## 吟剣詩舞部門

**発表会に寄せて**

原 けい子

春なお浅く、朝夕はまだまだ冷え込みがきびしいですが、吹く風は冷たくても春の到来が感じられるころ、伊勢崎市文化協会主催による発表会「第十二回吟剣詩舞の集い」を去る三月九日(土)に境総合文化センター大ホールにて開催いたしました。

前日の強い北風はおさまり、静かな暖かい一日となりました。

## 洋舞部門

**洋舞フェスティバルを終えて**

斎藤 千代子

第十四回伊勢崎市文化協会洋舞フェスティバルを、平成三十年九月九日(日)境総合文化センターで開催致しました。会場では一階ロビー、展示室において美術部門の総合作品展。二階では文化協会茶道部門の茶会が開催され合同発表会となりました。美術部門の作品はどれも目に止まるほどすばらしい絵画の数々が展示されていきました。

茶道部門の茶会も大勢の方々がお茶を楽しんでいました。私達洋舞部門もフェスティバルの幕が開き来賓の方々を祝辞をいただき緊張感で身の引きしまる思いでいっぱいになりました。

会場には大勢のお客様と衣裳に着替えた発表順の早い団体の人達が埋め尽くしていました。フェスティバルの参加団体は、レクダンス、フラダンス、合せて二十二団体で約四〇〇名が参加しました。そして今回は特別出演として太田フォークダンス研究会の皆さんに参加して頂きブルガリアの踊りを披露して頂きました。すこく見応えがあり感銘いたしました。レクダンス、フラ

全十五団体の会員が一同に会し日頃の稽古の成果を存分に発揮し、悔いのない発表会にと、会員一同心を合せ見応えのあるプログラムで会場を盛り上げました。特に子供たちの舞は素晴らしく、会場から惜しみない拍手と激励をいただき、舞の心、吟の心を受け継いでくれるものと大変嬉しく期待しております。

また、賛助出演として玉村町文化協会の吟詠会をはじめ、古武道居合道、華道、弓道など吟詠と合わせ、舞はもちろんのこと、それぞれの伝統を守り舞台で融合する緊張感や達成感、心がおどります。それが生きがいであり、元気の基となり、生涯学習のよるこびではないかと思えます。

式典では、伊勢崎市長五十嵐清隆様より日本古来の伝統文化・芸能の奥の深さと文化活動は人々の心を豊かにし、世の中が明るくなるとのお褒めの言葉をいただきました。また、教育長徳江基行様からは、日本の伝統文化の素晴らしさを子供たちに教え伝えてほしいとのお言葉をいただきました。

伝える者の心、受け継ぐ者の心継承の難しさを痛感しているところでした。

八歳の小学生から八〇代の会員まで、切磋琢磨し自己を高め充実した舞台を作り上げ、そして実りのある心豊かな人生を送り、来年も精進して、より高尚な発表会をめざしたいと願っています。

## 民謡民舞部門

**第十二回民謡民舞発表会を終えて**

大谷 ヒデ子

第十二回民謡民舞発表大会を平成三十一年二月十七日(日)境総合文化センター大ホールにて行いました。

今年もオープニングは「上州よいとこ」で華やかに始まりました。まさしく我が伊勢崎市も風光明媚で住み良い街、「上州よいとこ」伊勢崎よいとこでございます。近所の方や、知り合いの方に、プログラムを差し上げて、応援に来て頂き、互いに楽しくひとときを過す事が出来ました。平成最後の発表会という事

観察探訪し、石仏の表情をカメラにおさめる活動を続けています。

**第十回自然部門総合展**

この展示は部門最大の事業で、二回の文化祭を含め平成二十一年に十二団体でスタートしました。今回は平成三十年十一月十七日、十八日に境総合文化センターで開催し、九団体七十三人が二百六十二点余の労作を展示しました。

内訳は盆栽二十一人で七十五鉢、山野草三十四人で百三十六鉢、蘭五人で二十三鉢、菊花六人で十一鉢、石仏(写真)七人で十七点でした。今回も他の二つの部門の発表がセットされ、両日とも大盛況。総合展にも多数の来場者がおとずれ展示作品を熱心に見入っていました。今回は試みとして、総合展目録に各団体の事業活動など掲載し、ピリアル活動を行いました。

来賓の市長・教育長・文化協会長から賞賛の言葉を頂き大きな励みとなりました。他市町の関係団体の方々も訪れるなど交流が出来ました。総合展開催にあたり今回も事務局職員の皆さんには大変お世話になり感謝しています。

また、各団体の年間活動は市文化協会からの部門事業助成金を充て、計画した事業は全て実施することが出来ました。その概要は

盆栽では三団体合同の春の盆栽展などのほか個別に春・秋に展示会。

山野草では、春・秋の展示会のほか他の展示会にも出品。蘭では年四回各種の蘭の展示会。

菊花では秋に伊勢崎市菊花大会を開催の他主要施設にも菊花展示。

石仏では県内外で路傍に佇む道祖神・地藏や神社仏閣に鎮座している石仏像の写真撮影会を今年は四回実施。

野鳥では年間を通し利根川や広瀬川・御嶽山などで探鳥観察会を合せて十一回実施。

この他全団体とも各々例会や研修会・交流会を開催しました。

## 諸芸部門

### 第八回伊勢崎市民囲碁大会

佐山 祐治

二月二日(土)に標記大会を境総合文化センターを会場として開催した。

五十嵐市長と上毛新聞特選碁執筆者の鎌田氏の来賓臨席を賜り、激励の辞をいただいた。

参加者総勢六十四名、老若男女が終日鳥鷲を戦わせた。十六名ずつを棋力別のA～Dの四組に分け、四回戦で行った。和気藹々

## 写真部門

### 第十二回写真展を終えて

橋本 智明

今回は境総合文化センターの一般展示室と展示ロビーで平成三十一年三月十五日(金)～十七日(日)三日間開催いたしました。

五十嵐市長並びに教育長にお忙しい中、ご観覧いただきました。誠に有難う御座いました。写真部門は昨年「写真塾A.P.C」の入会があり八団体で八十八作品を展示いたしました。

各団体の特色があり、大変ジャンルの広さや厚さを感じます。中でもネイチャーが一番数が多く、山・川・雪原・野の花・動物・野鳥あるいは観光地の紅葉などがあり、レベルの高い作品が目立ちました。

一般風景では、鉄道の写真などが目を惹かせてくれました。スナップ写真では、人物がラクダに乗って鳥取砂丘を観光する姿が印象的でした。

他にシャボン玉の造形を写真に捉えた楽しい写真もありました。石仏で野仏の写真が一枚ありました。写真は記録をするメディアだけでなく画像で自己表現や芸

の中にも熱気溢れる闘いを展開した。

九十歳超の、とてもその歳には見えない若々しい方や、小学生五名、また、女子中学生二名が、大会を盛り上げ、華を添えた。

その様子は、後日、ユーチューブにアップされた。そこには過年度分もある。是非、御覧いただきたい。

順番通り、今年もC組の決勝戦が上毛特選碁に取材された。こちらも近いうちに上毛新聞囲碁欄に掲載される予定だ。

本大会は、文化協会諸芸部門の行事の一環であり、当日、会場では、書や絵画、マジック等の各部発表も実施されており、大変賑やかであった。

終わりに、事前準備から大会運営、片付等々を支えてくれたスタッフの方や市担当課員の方々に大変感謝申し上げます。

## 美術部門

### 第十二回総合作品展を終えて

鈴木 茂

平成の元号としては最後の開催となる第十二回総合作品展を三十年九月七日(金)から九日(日)まで、境総合文化センターで三日間開催し、九日(日)には、今回も歌謡部門、茶道部門が同

術的な表現ができる事が魅力の大きな所であります。今回の写真展は、初日には大ホールで演奏会があり、最終日は邦楽舞踊部門第十一回邦楽舞踊のつどいがあり、終了後写真展をご覧頂き大変有難う御座いました。

各部門の団体で高齢者が多く、若者が少なくなっている傾向がありますが、若者が加入して、活躍できる環境の整備が必要だと思いますが、なかなか良い手段が見つかからないのが現状です。生涯学習として参加を呼び掛けていきたいと思えます。

## 華道部門

### 未来へ継ぐ花の道

板垣 美江

二月十六日、十七日、華道部門によるいけばな展を開きました。例年どおり、ふくしプラザのワークショップは、春の香りに

つつまれました。会場造りも、手馴れた事務局の皆さんによって早々と仕上げて頂き感謝です。流派を超えた花人達の、生き生きと楽しそうに生け込む姿が、印象的でした。伝統を踏まえた立花、生花に加え、新鮮味あふれる現代的な花々。玄関でお客様

時間催となり、大勢の方々を観て頂く事が出来ました。展示方法も順送り場所が変り、入口を入ってすぐ右側の一般展示室

には、上州ひょうたん会の作品、それがまた、大小、形や色の違いなど楽しい作品がずらりと並びました。作品の側に説明がある。観賞の深さが出たのではないかと感じました。

フラワーアレンジメントでは、華・花と蔓との組み合わせや色の表現の工夫のあとが見られました。

境水彩画会、風景画、その他の絵も、淡い色彩で心が癒されま

す。押花サークルラベンダー。押花でありながらきれいな色を残すのが大変だなと感じました。

組み合わせにも感動しました。境きりえの会。色違いの紙を切りぬいて、合わせての表現

など見ごたえがあり心打たれました。

伊勢崎市くらしの会境支部。作品数も多く、立派な作品が揃っているように感じました。

作者名の説明等聞いたら一層良かったと思えます。

原ノ城窯、大きな壺、カエルを模した作品、枯木灯籠など楽しい作品が並び作者の思いが伝わって来るような気がしました。

境木彫りの会。木箱や盆などに牡丹の花などが彫り込まれ、創意工夫が見られました。月永会

を迎え、おもてなしをしたい様な愛らしい花も、爽やかに並びました。そんな花達に逢いに、毎年、五十嵐市長、徳江教育長は御来場下さいます。とても嬉しいことと、一同喜んで居ります。生ける人を癒やし、観る人を癒やす華道、いけばなとは？

広辞苑によりますと、樹枝草花などを切って花器に挿し、人工を加えて、その風姿を観賞する技術、理論、求道の面からとらえた生け花の称。とあります。日ごと花を生けている私達からしますと、生きている花のいのちを頂いているのです。

頂いたいのちに芸術性と、生ける人の個性を加味して、一つの作品を作り上げてゆくこと、となります。いのちを頂いたからには、そのいのちを生かしてあげなければ、と心がけているつもりです。

私ごとになりますが、今年のお正月、久しぶりに、京都池坊にての「初生け式」に参加して参りました。室町時代から続くこの行事は、毎年一月五日に行われます。花行列にはじまり、全国からまた海外支部が集まった千五百人の中には、八才から九十

八才の方もいらっしやいました。早朝からの生け込みが済むと、宗匠及び御家族、教授の巡視があり、その後祝賀会、福引、などと楽しく過ごし、今年一年の精進

は、全体にまとまって楽しめました。

紫墨会、墨の濃淡で表わす難かしさ、全体に良く表現されていたと感じました。

美術部門は、十二サークルの内十サークル参加、出品数は百

五十を越えました。どの部門でも高齢化が進み、会員やサークルの減少がこの先どうなっているのか心配ですが、昨今言われているように人生百年時代です、前向きにものごとを捕えて、良い作品を数多く作っていける様に頑張りましょう。

## 書道部門

### 第十二回書道展に思う

藤枝 幹雄

第十二回書道展を、平成三十一年二月一日から三日まで、境総合文化センターで開催いたしました。二十団体、二百十四名が出品いたしました。お陰様で一

〇三二名の書道愛好者にご来場いただき、皆様から絶賛のお言葉をいただきました。文化協会主催の書道展は、協会加入の団体に所属する会員が、自由に出品出来る、肩の張らない書展であり毎年楽しみにしております。

漢字、かな、大字書、近代詩文、を誓って散会となります。伝統を守るだけではなく、その時代、時代に即した花を生けて来たことが、五百五十七年余の時を経て続いて来た力となったのでしょうか。今、私達が、思う様な材料が手に入りにくくなったと嘆くより、そんな中でこそ、創意工夫で素敵な作品を生けることが大切になって来ているのかも知れません。小さな努力の積み重ねが、伝統文化の衰退の歯止めとなり未来へ継ぐ小さな力となります様に。

### 伊勢崎市文化協会へ の新規加入案内

伊勢崎市文化協会は、伊勢崎市における各文化団体の連絡調整を図るとともに活動を援助し、その向上発展に務め、本市における芸術文化振興発展に寄与することを目的としています。また、部門活動報告にありますように、一年を通して各部門が精力的に様々な行事を行っています。各地域で活動なさっている皆さんも加入を検討してみたいかがでしょうか。《入会資格》

入会しようとする団体は、十名以上で組織する団体であり、常任理事会で承認を得て会員となります。

#### 《部門》

- ①美術
- ②書道
- ③写真
- ④華道
- ⑤茶
- ⑥文学
- ⑦音楽
- ⑧歌謡
- ⑨邦楽舞踊
- ⑩吟剣詩舞
- ⑪民謡民舞
- ⑫郷土芸能
- ⑬洋舞
- ⑭自然
- ⑮諸芸

の十五部門があります。ぜひ、ご加入をお願いいたします。

#### 〇お問い合わせ・入会の申し込み先

伊勢崎市文化協会事務局  
伊勢崎市役所  
経済部文化観光課内  
TEL 271-2758



美術部門



郷土芸能部門



歌謡部門

# 文化協会活動 ～ アルバム ～



書道部門



洋舞部門



邦楽舞踊部門



茶道部門



写真部門



自然部門



吟剣詩舞部門



文学部門



華道部門



諸芸部門



民謡民舞部門



音楽部門

# 平成30年度賛助会員名簿一覧表

No.	団体名／会社名／個人名	住 所	代 表 者	電話番号
20	清水生花店	伊勢崎市三光町7-23	清水 秋夫	26-8741
21	フローリスト みね	伊勢崎市曲輪町15-10	藤井 栄	23-3628
22	ほしの呉服店	伊勢崎市国定町1丁目1250-10	星野 勝正	63-0144
23	(有)飛翔	伊勢崎市今井町410-2	西村 敬右	25-2018
24	東光書道会	伊勢崎市境米岡685	新井 哲郎	74-0533
25	栗原軽貨物	伊勢崎市大手町26-4	栗原 章二	25-1390
26	ナイトスポット梵	伊勢崎市上諏訪町1257-2	久保美由紀	23-6867
27	彩扇会	伊勢崎市香林町1-359	須賀いせ子	62-0690
28	琴謡会	伊勢崎市野町114-4	井上 明子	62-1497
29	紫墨会	伊勢崎市昭和町1950-1	児島貞二郎	25-4025
30	川島美術印刷(株)	伊勢崎市中町760	川島 和美	25-8111
31	川島 和美	伊勢崎市今井町377	川島 和美	26-7580
32	(株)三共家具	伊勢崎市境伊与久3277	川端 和代	76-3744
33	(有)ユニバースサービス	伊勢崎市境伊与久3277	川端 巖	76-3023
34	(株)メガネのカイガン	伊勢崎市境女塚2-1	山崎 幸一	74-1681
35	(株)アクト印刷	伊勢崎市下触町911-1	阿久津泰弘	62-0460
36	書道研究墨鳴会	伊勢崎市馬見塚町3262-13	丸橋 鳴峰	32-8472
37	ふたば美容室	伊勢崎市野町27-4	町田 二葉	62-5914
38	八代肉店	伊勢崎市大手町4-8	塚田 晋一	25-1960
39	伊勢崎ユネスコ協会	伊勢崎市寿町198-5	設楽 孝吉	63-0988
40	プラザアリア	伊勢崎市喜多町147-1	鷹巢 修	25-0606

順不同・敬称略

No.	団体名／会社名／個人名	住 所	代 表 者	電話番号
1	(有)ワイズ・プランニング	伊勢崎市今泉町1-1099	山口 善弘	24-5033
2	国定窯	伊勢崎市上田町172-10	関口 宗平	62-2881
3	カラオケスタジオ ミナミ	伊勢崎市境上矢島218	南 和夫	76-4129
4	(有)田澤商店(セブンイレブン)	伊勢崎市田部井町2丁目乙1262	田沢 透	62-0018
5	東観光バス(株)	伊勢崎市境上洲名1186	中島 俊幸	76-5100
6	細谷印刷(有)	伊勢崎市今泉町2-939-5	細谷 昌孝	25-0193
7	伊勢崎プリオパレス	伊勢崎市昭和町3827	松井 研三	25-4122
8	ふろーらり ねぎし	伊勢崎市宮子町3634-9	根岸 一博	24-4222
9	(株)シンエイ	伊勢崎市連取町2355-5	清水 秀明	24-7245
10	三橋寿司	伊勢崎市昭和町4071	阿久津幸次	23-8069
11	カワバタ設計	伊勢崎市八幡町45-2	川端 俊明	25-8756
12	(有)保坂工務店	伊勢崎市波志江町3667	保坂 正男	24-1905
13	佐波伊勢崎農業協同組合	伊勢崎市連取町3096番地1	代表理事組合長 森村 孝利	20-1220
14	着物良品	前橋市西片貝町3-297-3	堀口 隆敬	027-243-7033
15	西ひとみ社会保険労務士事務所	伊勢崎市田部井町1-1166-20	西 ひとみ	61-0570
16	(有)諏訪精工	伊勢崎市国定町2-2065-3	諏訪 勝美	62-0126
17	魚や大水	伊勢崎市田部井町2-858-1	諏訪 弘	20-8338
18	(有)品田石材	伊勢崎市国定町2-1854-6	品田 玉頭	62-0240
19	かず歯科診療所	伊勢崎市国定町2-2002-3	大山 和寿	62-8196

# 令和元年度伊勢崎市文化協会団体名簿

(平成31年4月1日現在)

	団体名	代表者	会員数
郷土芸能	25 東町囃子保存会	岡本 宇正	50
	26 女塚祭礼囃子保存会	真貝 豊	28
	27 栄町祭礼囃子保存会	飯島 義雄	112
	28 三ツ木祭礼囃子保存会	室田 幸広	40
	29 上州・境雉子尾太鼓	柿沼 盈	46
	30 剛志民謡保存会	森村 清志	17
	31 赤堀ひごろも太鼓	吉田 和義	44
	32 三室町子ども八木節会	小暮 利明	22
	33 上州八木節西小保方匠	牛脇 一英	11
	34 美茂呂町屋台囃子保存会	村田 利雄	30
35 稲間組屋台・屋台囃子保存会	板垣 有一	20	
36 上州国定睦	井上 潤	10	
37 福島町八木節保存会	本木 栄一	25	
38 富塚町銭太鼓愛好会	岡田 きみ子	27	
39 群天星(ムリティンブシ)	鈴木 円	24	
合計		1,123	
洋舞	1 JAあずまフラクラブ	細野 京子	13
	2 フォークダンス境	山本 きみ江	9
	3 プルメリア	柳澤 節子	10
	4 レクダンスみさと	永島 トシ江	20
	5 ハイビスカス豊受	藤本 清子	13
	6 Hula Hailau O Na Pua Lehua	福島 きり奈	26
	7 フラナニ・プアリリレファ	茂木 悦子	10
	8 フラナニ・ハイビスカス赤堀	斎藤 千代子	10
	9 ヒナノ	草間 寿子	12
	10 ピカケ伊勢崎	小林 ひろみ	15
	11 Puanani	上岡 郁美	14
	12 レイモミ	高橋 文江	14
	13 三郷小町	加藤 和江	13
	14 ロゼラニ	多賀谷 道代	10
	15 フラサークルパカラナ	石原 美津江	9
	16 フラナニブエオナ	中島 美津子	11
	17 ナーパ	武井 貴美	13
	18 'Ohana Lokahi	上岡 文子	65
	19 名和ナイスフラレディース	小暮 智枝	18
	20 フラグループ Nā Lei	小此木 文子	10
	21 カプア	渡辺 明美	14
	22 ミノアカ	岡田 君子	11
	23 レクダンスKSG	大森 満里子	10
	24 殖蓮プルメリア	清水 芳子	27
合計		377	
自然	1 日本野鳥の会群馬伊勢崎分会	高田 恒安	50
	2 日本盆栽協会伊勢崎支部	吹上 好弘	20
	3 伊勢崎小品盆栽会	金井 由一	20
	4 伊勢崎市盆栽クラブ連合会	大和 洋司	96
	5 伊勢崎市蘭蕙愛好会	吉沢 久治	13
	6 伊勢崎山草会	細谷 一美	16
	7 伊勢崎菊花同友会	小島 勝	21
	8 伊勢崎石仏の会	吉田 博行	12
	9 境山草会	瀬井 明	17
	10 うえはす山野草の会	小野里 美恵子	14
合計		279	
諸芸	1 あずま赤堀囲碁愛好会	小保方 重吉	19
	2 伊勢崎マジシャンクラブ	菊地 正之	17
	3 伊勢崎愛刀会	新木 純夫	12
	4 伊勢崎佐波囲碁会	村岡 武雄	65
	5 境囲碁研究会	天田 育宏	30
合計		143	
総計		5,962	
217団体			

	団体名	代表者	会員数	
邦楽舞踊	13 美也珠会	小島 美也子	10	
	14 日本舞踊あゆみ会	佐野 恭子	31	
	15 樹鳳会	浅見 由紀恵	10	
	16 久紀の会	児島 美江	27	
	17 グループことほぎ	尾内 能利江	15	
	18 好風会	角田 庸子	10	
	19 やなぎ会	高橋 ゆり子	10	
	合計		367	
	吟剣詩舞	1 寿流 日舞 詩舞 鶴登加会	山下 美津子	14
		2 寿流 日舞 詩舞 鶴久紀会	原 けい子	27
3 心彰流 愛吟詩道会 伊勢崎吟詠会		阿久津 幸次	9	
4 吟道館流 伊勢崎吟詠会 緑陰の集い		関 勝巳	50	
5 吟道館流 上武吟詠会 那波の会		石田 英生	35	
6 美扇流 鶴緑会		金井 キヨミ	3	
7 吟道館流 上武吟詠会 瑞雲の会		岡林 延夫	15	
8 吟道館流 伊勢崎吟詠会 芙蓉の会		小林 清浩	17	
9 吟道館流 伊勢崎吟詠会 東吟の集い		塩島 弘子	10	
10 吟道館流 伊勢崎吟詠会 華の会		村田 勇	35	
11 心彰流 剣舞剣彰会		斎藤 ひとみ	10	
12 岳心流 東栄諏訪美会		諏訪 勝美	15	
13 心彰流 あずま吟詠会		小暮 利明	15	
14 心彰流 あずま剣詩舞教室		白川 節子	10	
15 菊水流 菊崇会		田村 雅代	9	
合計		274		
民謡民舞	1 旭星会	高野 邁	28	
	2 旭星会三絃尺八クラブ	高野 邁	15	
	3 慎星会	鎗木 慎紀子	13	
	4 天秋会	大谷 ヒデ子	10	
	5 天秋会江原教室	江原 昌代	10	
	6 秀月会	堀川 茂	10	
	7 山輝稚会	森村 米多	10	
	8 マズルカFD(フォークダンス)茂呂	松本 春野	22	
	9 登三善会	浅沼 利子	10	
	10 宮子民踊会	臂 勝代	5	
	11 優乃会	水島 正枝	11	
	12 鳳雅会	清水 洋子	8	
合計		152		
郷土芸能	1 八斗島民芸保存会	松本 好夫	23	
	2 宮子町八木節保存会	井上 清行	25	
	3 伊勢崎交通安全協会女性部八木節部	小野田 安子	20	
	4 三郷八木節保存会	糸井 清春	22	
	5 神谷八木節会	小林 好夫	25	
	6 赤堀囃子会	金子 英保	18	
	7 田下八木節会	今井 照彦	22	
	8 上武士八木節同好会	池田 治年	17	
	9 上洲名八木節保存会	長沼 市治	17	
	10 百々親友会八木節部	菊池 広文	65	
	11 馬場八木節愛好会	持木 三雄	13	
	12 伊勢崎和太鼓	半田 孝	30	
	13 荒木流拳法保存会	鈴木 清一郎	20	
	14 下連町安来節保存会	飯塚 武夫	10	
	15 木遣り保存会	矢内 昌春	50	
	16 千本木龍頭神舞保存会	丸橋 操	27	
	17 南北千木町屋台囃子保存会	鈴木 宣男	35	
	18 華だんべえ会	松井 千代子	20	
	19 伊勢崎銭太鼓愛好会	重田 玲子	25	
	20 西久保三おはやし保存会	常木 静子	15	
	21 上州あずま太鼓会	須賀 正文	39	
	22 氣楽流柔術保存会	水科 壽美	30	
	23 下洲名獅子舞保存会	大橋 増一郎	18	
	24 東新井獅子舞保存会	高橋 一豊	31	

	団体名	代表者	会員数
文学	1 みさと短歌会	吉沢 典子	7
	2 境図書館短歌会	光山 半彌	18
	3 群馬童話研究会	星 瑛子	13
	4 鈴木惣太郎を守る会	新藤 暁旦	40
	5 紙芝居を楽しむ会	新藤 靖	20
	6 伊勢崎市民俳句会	磯部 道昭	24
合計		122	
音楽	1 伊勢崎アコーディオンサークル	中野 靖巳	15
	2 伊勢崎市民吹奏楽団	境野 智章	61
	3 アイオーしんきん音楽部	桑原 美生	17
	4 ISESAKI SMC BIG BAND	西野目 心吾	34
	5 サウンドシャワー	大澤 敏明	15
	6 早川歌謡バンド	吉野 宗治	25
	7 合唱団コール・ルーエ	浜田 樹	29
	8 伊勢崎混声合唱団	矢内 三四卯	20
	9 伊勢崎コーラス・ノイエ	今 啓子	36
	10 あずまコーラスざんか	高橋 蓉代	13
	11 境女声コーラス水仙	栗原 茂美	27
	12 コーラス・ヴィオラ	伊藤 喜美代	23
	13 伊勢崎第九を歌う会	尾内 本典	80
	14 ルーエクラブ合唱団	池田 昌子	23
	15 あすなるハーモニカクラブ	石橋 久	18
	16 凜	平田 康子	15
	17 伊勢崎室内合唱団	吉田 敏男	29
	18 女声コーラスめだか	鏡塚 福栄	25
	19 オカリナ・響	田代 澄江	12
	20 コールひまわり	大井 麗子	15
	21 コール ぼこ・あ・ぼこ	田中 悦子	28
	22 あんさんぶる22 (アンサンブルトゥエンティトゥー)	下田 清子	13
合計		573	
歌謡	1 あずま白樺会	船戸 省三郎	25
	2 櫻桃会	植木 昭一	160
	3 ひまわり歌謡友好会	川田 キチノ	68
	4 ミュージックさかい	田村 文司	11
	5 清水歌謡クラブ	前野 政一	92
	6 白川恵美歌謡学院境教室	北 サヨ子	139
	7 大国歌謡クラブ	荒井 通好	63
	8 NPO伊勢崎市福祉歌謡連合会	清水 巖	108
	9 植木歌謡教室	植木 春江	32
	10 ラッキーなかよし会	伊藤 ひろみ	33
	11 TAKEISHIクラブ	井上 喜久寿	28
	12 歌謡教室ひばり会	田島 初美	20
	13 歌謡教室チェリー	奥積 房江	31
合計		810	
邦楽舞踊	1 伊勢崎邦楽舞踊協会	青山 正弘	120
	2 祐妃会	川島 かずみ	20
	3 悦紅会	飯塚 悦子	10
	4 扇優会	石倉 優美子	22
	5 いづみ会	竹内 千賀子	8
	6 扇紫江会	林 君江	15
	7 吉三会	飯野 弘美	10
	8 玉藻会	佐俣 玉江	10
	9 若駒会	星野 良枝	10
	10 文寿会	高山 文代	7
	11 舞踊松葉会	田所 陽子	14
	12 琴謡会	井上 明子	8

	団体名	代表者	会員数
美術	1 月永会	山崎 貞子	5
	2 紫墨会	児島 貞二郎	13
	3 境水彩画会	田島 敏宏	16
	4 境きりえの会	柿沼 スミ江	6
	5 ちぎり絵愛好会	仁科 令子	15
	6 上州ひょうたん会	原 角雄	50
	7 境フラワーアレンジメントサークル	斉藤 美智子	33
	8 押し花サークル・ラベンダー	高橋 史子	4
	9 境木彫りの会	須藤 尚眞	12
	10 伊勢崎市くらしの会	木島 勝恵	55
	11 フラワーアレンジメント華	茂木 徳子	11
	12 原ノ城窯	鈴木 茂	13
合計		233	
書道	1 清月書道会	福田 令子	40
	2 書道研究 墨鳴会	丸橋 孝男	50
	3 書藝研究社	清水 いせ子	30
	4 円かな書会	栗原 ウメ子	18
	5 東光会	萩原 仁子	15
	6 玉葉会	石橋 満津枝	17
	7 昇雲会	藤枝 幹雄	30
	8 祥山書会	神宮 まり子	11
	9 木村かな書道会	木村 和子	13
	10 書宝会	松本 近史	10
	11 雪月華書道会	高野 千春	10
	12 草友会	高柳 託治	9
	13 大蛙洞書道会	大貫 八生	20
	14 東光書道会	新井 哲郎	40
	15 東書会	栗原 敏明	9
	16 書遊会	大橋 光義	4
	17 洲名印社	大貫 勝利	13
	18 翠香会	根岸 幸子	30
	19 流水会	高山 清平	29
	20 白玄会	栗原 夏雄	16
	21 書道研究聖筆会	星野 明	10
	22 利根書会	町田 直美	13
	23 松友会	井田 眞一	14
合計		451	
写真	1 日報連 伊勢崎支部	岡村 文夫	4
	2 豊受写真クラブ	田部井 正夫	10
	3 写団国定	神田 武	7
	4 写団チングルマ	橋本 智明	18
	5 ほのぼの写真クラブ	前野 龍一	10
	6 P.C アベックス	池田 育兄	15
	7 写真倶楽部ペーニャ	小倉 良枝	50
	8 [写心塾] A.P.C.	秋山 曄	11
合計		125	
華道	1 伊勢崎いけばな協会 桜	長谷川 恭子	100
	2 伊勢崎いけばな協会 松	永島 治子	100
合計		200	
茶道	1 伊勢崎茶道会 大日本茶道学会	猪脇 典子	123
	2 伊勢崎茶道会 江戸千家宗家	中島 アグリ	120
	3 伊勢崎茶道会表千家	小林 昭枝	210
	4 伊勢崎茶道会裏千家	大竹 里子	200
	5 伊勢崎茶道会江戸千家	有川 よし子	30
	6 煎茶道東阿部流	新井 幸子	22
	7 煎茶道方円流	丹波 真知子	28
合計		733	

# 伊勢崎市文化協会常任理事名簿

役職	氏名	所属部門
会長	諏訪勝美	吟剣詩舞
副会長	新井哲郎	書道
々	児島貞二郎	美術
々	丸橋孝男	書道
々	高野邁	民謡民舞
書記	関勝巳	吟剣詩舞
々	大和田貞代	華道
会計	川島和美	邦楽舞踊
々	大和洋司	自然
監事	清水巖	歌謡
々	糸井清春	郷土芸能
常任理事	茂木徳子	美術
々	橋本智明	写真
々	岡村文夫	写真
々	永島治子	華道
々	中島アグリ	茶道
々	阿久津萬里子	茶道

役職	氏名	所属部門
常任理事	星瑛子	文学
々	光山半彌	文学
々	高橋蓉代	音楽
々	栗原茂美	音楽
々	植木昭一	歌謡
々	船戸省三郎	歌謡
々	石倉優美子	邦楽舞踊
々	原けい子	吟剣詩舞
々	高橋富美子	民謡民舞
々	塩野正雄	郷土芸能
々	小林好夫	郷土芸能
々	永島トシ江	洋舞
々	細野京子	洋舞
々	小野里美恵子	自然
々	菊地正之	諸芸
々	村岡武雄	諸芸

# 伊勢崎市文化いせさき編集委員名簿

No.	役職	名前	部門	所属
1	委員長	星瑛子	文学	群馬童話研究会
2	副委員長	橋本智明	写真	写団チングルマ
3	委員	鈴木茂	美術	原ノ城窯
4	〃	福田令子	書道	清月書道会
5	〃	永島治子	華道	伊勢崎いけばな協会 松
6	〃	有川よし子	茶道	伊勢崎茶道会江戸千家
7	〃	高橋蓉代	音楽	あずまコールさざんか
8	〃	船戸省三郎	歌謡	あずま白樺会
9	〃	飯塚悦子	邦楽舞踊	悦紅会
10	〃	石田英生	吟剣詩舞	吟道館流 上武吟詠会 那波の会
11	〃	江原昌代	民謡民舞	天秋会江原教室
12	〃	金子英保	郷土芸能	赤堀郷友会
13	〃	田島典子	洋舞	フラナニ・プアリリレファ
14	〃	大和洋司	自然	伊勢崎市盆栽クラブ連合会
15	〃	小保方重吉	諸芸	あずま赤堀囲碁愛好会

## 編集後記

大地を花々が彩るさわやかな季節となりました。  
ここに一年を振り返って見ますと、社会の情勢が大きく変化する中にありながらも、皆さんが四季の移ろいを愛で、趣味を生かした事業を楽しみ、幸せを噛みしめることのできた年であったように思います。  
このように、様々な分野で活躍された皆さんの足跡を見ると、人生を豊かにする活力の基は、それぞれが常に好奇心を持つ事のように思われます。  
文化的事業は、継続が大切です。この好奇心と情熱を持って、これらの文化的事業に係われることが、人生を豊かにし、そこに情熱を注いでいる姿こそ感動させられるのです。  
こうした皆さんの活動状況をまとめた『文化いせさき』を、ここにお届け出来ることは、本当に嬉しく有り難いことです。  
これも偏に、市並びに賛助会員の皆様方の文化協会にお寄せ下さった、温かいご理解ご協力の賜物であることは申すまでもありません。心よりお礼申し上げます。そして、文化観光課の職員の皆様、編集委員の皆さんのお力添えにも感謝です。  
新しい元号の年。文化協会の更なる発展と会員の皆さんの健康と活躍を祈念しつつ、後記とさせていただきます。  
星記

# 伊勢崎市文化協会会則

## (名称)

第1条 本会は伊勢崎市文化協会と称する。

## (目的)

第2条 本会は伊勢崎市における各文化団体の連絡調整を図るとともに活動を援助し、その向上発展に務め、本市における芸術文化振興発展に寄与することを目的とする。

## (事業)

第3条 前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 各種文化団体間の連絡、情報交換、親睦に関する事。 (2) 各種文化団体の行う事業の後援、奨励に関する事。  
(3) 文化的研修に関する事。 (4) その他文化活動に関する事。

## (会員)

第4条 本会は、次の会員をもって組織する。

- (1) 会員 本会の目的に賛同する文化団体。 (2) 賛助会員 本会の目的、事業に賛同する個人、法人、団体。

## (入会)

第5条 本会に入会しようとする団体は10名以上で組織する団体であることとし、会長は申し出のあったとき、常任理事会に報告し、承認を得るものとする。

2 賛助会員は、会長に入会を申し出ることにより会員となる。

## (退会)

第6条 本会を退会しようとする会員は、退会届を会長に提出するものとする。

2 会長は、本会の会員が会員として不適当と認めるときは、常任理事会にはかり、退会させることができる。

## (部門)

第7条 本会に次の部門を置く。

- ①美術 ②書道 ③写真 ④華道 ⑤茶道 ⑥文学 ⑦音楽 ⑧歌謡  
⑨邦楽舞踊 ⑩吟剣詩舞 ⑪民謡民舞 ⑫郷土芸能 ⑬洋舞 ⑭自然 ⑮諸芸

## (役員)

第8条 本会に次の役員を置く。

- ①会長 1名 ②副会長 4名 ③書記 2名  
④会計 2名 ⑤監事 2名 ⑥常任理事 若干名

本会には前項の役員のほかに顧問をおくことができる。

顧問は、会長が委嘱する。

## (理事)

第9条 理事はすべての構成団体から1名選出し、総会の代議員となる。

## (常任理事の選出)

第10条 常任理事は、部門ごとに理事の中から選出する。その選任数は各部門毎に2名を基本とし、構成員1,000名を超える部門については、1,000名を超えた構成員500名につき1名を加えた数の常任理事を選任する。

## (役員選出)

第11条 役員は常任理事の中から常任理事会で選出し、総会において承認する。

ただし、会長及び監事は常任理事以外のものをもって充てることができる。

## (役員職務)

第12条 役員職務は以下のとおりとする。

- ①会長は本会を代表し、会務を総理する。 ②副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはこれに代わる。  
③書記は本会の庶務事務にあたる。 ④会計は本会の会計を掌る。  
⑤監事は会務を監査し、総会に報告する。 ⑥常任理事は会務に参与し、その執行にあたる。

## (役員任期)

第13条 役員任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。欠員を生じた場合は

第10条並びに第11条の規定に従い欠損を補充する。その任期は前任者の残任期間とする。

## (会議)

第14条 本会の会議は次のとおりとする。

- (1) 役員会 会長・副会長・書記・会計・監事からなり会長が必要に応じて召集し、会の重要事項を協議する。  
(2) 常任理事会 常任理事からなり会長が必要に応じて召集し、会の運営・事業等について協議し、また執行にあたる。  
(3) 総会 代議員(理事)からなり、毎年1回以上開催し、予算、決算、事業計画等を審議する。

## (会費)

第15条 本会の会費は各団体会費年額3,000円とする。

2 賛助会員の会費は年額とし、1口10,000円とする。

## (会計年度)

第16条 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わるものとする。

## (会則改正)

第17条 本会の会則改正は総会において決定する。

## 付則

- 1 この会則は平成19年5月25日から施行する。  
この会則は平成23年5月20日から施行する。